

# 北中城村水道ビジョン【概要版】

## 1. はじめに

### ■計画策定の趣旨

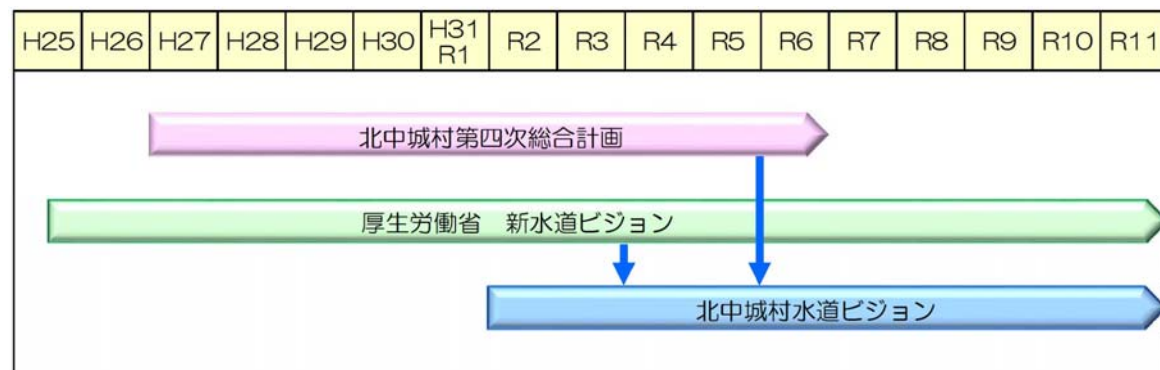
水道事業は、ライフラインとして村民の安心や信頼を未来につなげるため、長期的な視点に立って事業を進めていく必要があります。そのため、引き続き、水の安定供給を確保するために老朽施設の更新や施設の強靱化を図るとともに、持続可能な水道事業運営を行うため、本村水道ビジョンを策定します。

### ■位置づけ

人口・給水量の減少及び東日本大震災等、水道事業を取り巻く環境が大きく変化してきております。本村の水道事業においても、事業環境の変化に対応し、持続可能な水道事業運営を行う必要があるため、「北中城村第四次総合計画」および「新水道ビジョン（厚生労働省）」に示される内容を踏まえ、本村の水道ビジョンを策定します。

### ■計画期間

計画期間は令和2年度から令和11年度までの10年間とします。



## 2. 水道事業の概要

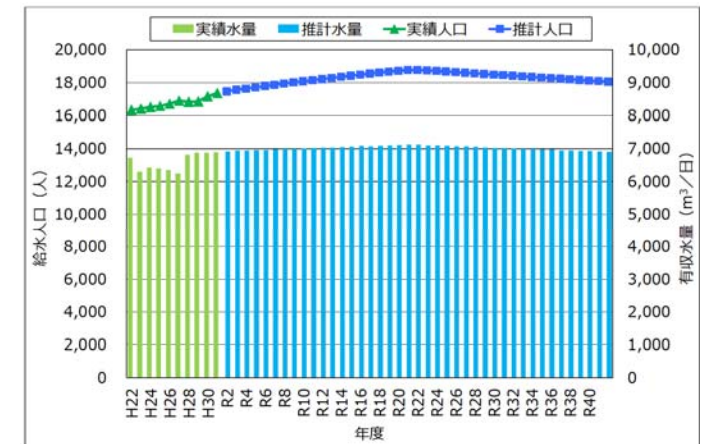
本村の水道事業は、昭和39年12月に上水道事業経営の創設認可（給水人口2,900人、一日最大給水量1,087 m<sup>3</sup>/日）を受けました。その後、拡張に伴う変更を行い、現在、平成31年3月に第5回拡張第2回変更（給水人口18,400人、一日最大給水量10,500 m<sup>3</sup>/日）の認可を受け、水道普及率100%にて水道事業運営を行っております。

本村は、水道水の全量を水道用水供給事業者である沖縄県企業局より受水し、水道用水として配水しています。給水区域は本村全域であり、7つの配水系（瑞慶覧配水系、島袋配水池系、基地配水系、安谷屋配水系、喜舎場・仲順配水池系、大城配水池系、熱田配水池系）に分かれています。

## 3. 将来の事業環境の変化ならびに今後の課題

### ■将来の事業環境の変化

一日最大給水量は人口増加の影響を受け、平成30年度6,900 m<sup>3</sup>/日から令和20年度7,128 m<sup>3</sup>/日まで増加傾向にあります。その後は微減傾向に転じます。また、営業用水量や基地用水量は外部環境の変化によって変動する可能性があります。そのため、将来の水需要低下にともなう料金収入減少についても、見据えていく必要があります。



また、本村の水道施設は昭和40年代より建設されており、法定耐用年数を迎える施設が今後、増大します。そのため、可能な限り延命化を図りつつ、計画的に更新を行っていく必要があります。

### ■今後の課題

現状分析ならびに将来の事業環境を踏まえ、本村水道事業の課題を以下に整理します。

区分	課題	
安全	水質管理の充実	水質監視体制の継続的な確保 貯水槽管理の適正管理
	施設の適正管理	老朽化施設が増加する中での施設管理
安心 (強靱)	水道施設の更新・耐震化	施設・管路の更新 配水池等の基幹施設・重要管路施設の耐震化
	災害時の応急対策	応急給水拠点の拡充 災害時応急給水対策を含めた危機管理体制の強化
安定 (持続)	経営基盤の強化	アセットマネジメントによる計画的な投資 将来の更新需要や変動リスクに対応する経営基盤の強化
	環境負荷の低減	省エネルギー対策の推進
	人材育成	職員の水道技術の維持・向上 事業執行に必要な適正な職員体制の確保
	お客様へのサービス向上	情報提供の充実 お客様との情報共有と連携

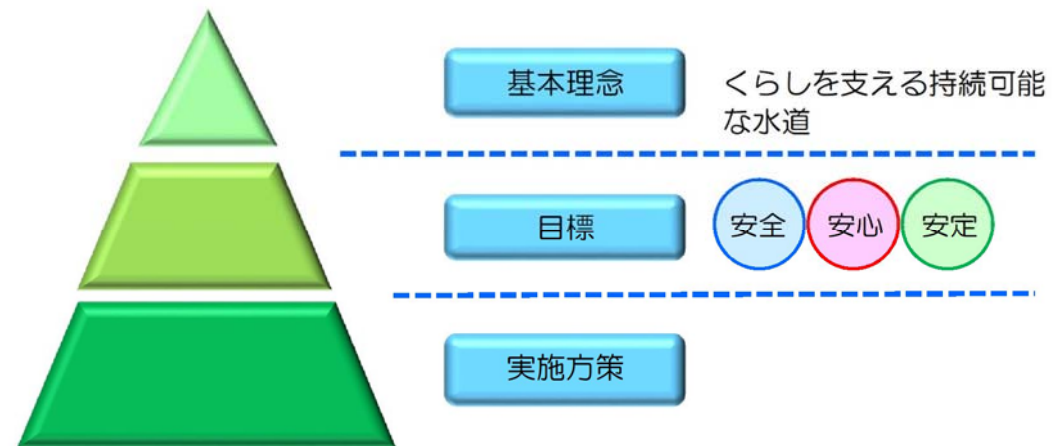
## 4. 水道事業の理想像と目標設定

### ■水道ビジョンの基本理念

本村の水道事業は、村民生活に欠かすことのできないライフラインとして事業を推進してきました。また、北中城村第四次総合計画で掲げられている「平和で人と緑が輝く、健康長寿と文化のむら きたなかくすく」を支えるためにも、今後も水道事業を持続する必要があります。本計画では、水道ビジョンが目指す将来の方向と、現状・地域特性等を踏まえ、北中城村水道事業の理想像を設定しました。

**基本理念** : **くらしを支える持続可能な水道**

安全・安心・安定（トリプル A）した水道事業を実現し、未来に向けて持続可能な水道事業を進めていきます。



### ■目指すべき方向性

国の「新水道ビジョン」において示されている「安全」・「安心（強靱）」・「安定（持続）」の3つの観点から、目指すべき50年後の水道の理想像を掲げ、その実現に向けた基本施策、実施施策に取り組みます。

- A 安全・・・安全かつ安定して水を供給できる水道
- A 安心（強靱）・・・村民が安心して利用できる水道
- A 安定（持続）・・・未来に向けて安定した水道事業運営

## 5. 主な取組みの概要

水道ビジョンの目指すべき方向性の達成に向けて、優先的、重点的に取り組む主な事業を体系的に整理し、各事業を計画的に推進していきます。以下に、主な施策や取組みを示します。

目標	主な施策	主な取組み
<b>安全</b> 安全かつ安定して水を供給できる水道	水質管理の充実と強化 施設の適正管理	・水質監視と企業局との情報共有・連携 ・貯水槽水道の適正管理 ・漏水調査の継続的な実施
<b>安心</b> 災害に強い水道	水道施設の更新・耐震化 災害時の応急対策	・配水池等の耐震化 ・計画的な設備の更新 ・管路施設の更新と耐震化 ・応急給水対策を含めた危機管理体制の強化
<b>安定</b> 未来に向けて安定した水道事業運営	経営基盤の強化 環境負荷の低減 人材育成と技術継承 お客様サービスの向上	・アセットマネジメントの推進 ・中長期的な資金管理 ・省エネルギー対策の推進 ・水道技術の継承 ・事業推進に必要な人員確保 ・民間活力の活用 ・広報の充実 ・お客様ニーズの把握

## 6. フォローアップ

水道ビジョンにおいて掲げた主な取組みについて、計画的に事業を推進するため、PDCA サイクルによる進捗管理を行い、継続的改善を図ります。進捗管理では、計画策定や目標設定を行った上で、計画の進捗を確認し、社会環境の変化や技術革新等に対応できるよう、適宜、見直しを行います。

各事業は5年程度で見直しを行い、継続的に計画の改善を図ることにより、水道ビジョンの目指すべき方向性についての実現を目指します。